

新化 *Let's Fight Together!* 進路通信第8号

11月です。先月の初めは後期だというのに暑い日があって、Tシャツでいられました。今月末には雪の便りが届くでしょうか。「季節が変わるとき」はこんなものです。

修学旅行、校外研修はいかがでしたか。これ以上はないという好天に恵まれました。いい思い出になった人が多いことでしょう。天候は旅行の大きな要素です。「花は盛りに月はくまなきをのみ見るものかは」とは言いますが、やはり秋晴れだと気分がいいですね。

3年生は就職で内定した人が増え、進学でも総合型で内定した人が増えてきました。推薦型ではまさにこれから出願という人が多いことでしょう。普通科の多数が受験する大学入学共通テストまでは70日あまりです。秋が深まるとともに受験シーズンとなります。

2年生は現実的に進路を考えるとき。1年生は文理選択です。今月末はもう後期中間考査です。

《当面の進路関係行事》

- 11 / 4 (金) 5 (土) 2年生ベネッセ学力テスト
- 5 (土) 1年生ベネッセ学力テスト
- 7 (月) ~1, 2年生進路希望調査
- 18 (金) 19 (土) 3年生全統共テプレ模試
- 24 (木) 1, 2年生普通科企業見学
- 28 (月) ~12 / 1 (木) 後期中間考査
- 12 / 2 (金) 3年生前期特編授業開始

《雑感》

学校推薦型入試の出願が始まる（一部で始まっている）。3年生諸君は「自分のことは自分で」を実践しているかな。1, 2年生のみなさんもその気であるかな。志望理由書や願書などの書類作成、受験料の振り込み、交通手段の選択、宿泊の手配、いろいろな事務的な手続きをできる限り自分でやろう。高校生なので経済的な面は保護者に頼ることになるが、選挙権を持って社会へ出て行くのだから、「保護者任せ」では情けない。要項をしっかりと読めばできるし、HPを見たり、入試課に問い合わせればほとんどの疑問は解決する。それを自分でやろう。

もう10年ほど前になるが、トラブル防止と人件費の削減をかねたWEB出願が増え始めたころ、ある大学の担当者からこんなことを聞いた。「WEB出願になって書類のミスは確かになくなったのですが、電話による問い合わせは増えて、しかもその電話の8割は母親からなんですよ。」東海の有力私立大の話である。今はどうなんだろう。

自分が高校生だったころは、志望する大学に切手を貼った返信用封筒を同封して郵便で願書を取り寄せることから受験がスタートしていた。時代が違うのでその不便を自慢するわけではないが、その作業を通じて依頼文の書き方、「角形2号」の正体、消印や書留の意味、などを知って「社会勉強」になった。当時は「国語表現」という科目はなかったし、保護者（親）に受験の経験がない家がほとんどで「親に聞く」という選択肢がそもそもなかった。自分でやらざるを得なかったとも言える。そのかわり入学してからの事務的な手続きの事前学習になった。下宿（アパート）の契約や荷物の手配、住民票を移したり、銀行口座を開設したり、なども全部自分でやった。

つまり卒業後の進路準備がそのまま社会生活を自力で営む第一歩だったのだ。

「高校は勉強するところ」だ。確かに学力は大事だ。だが「勉強さえできればいい」という高校生にはなってほしくない。

「自分のことは自分で」できる武義高生として社会に出てほしい。

《おまけ》

とはいえ、誰しもはじめは初心者。失敗は起こり得る。ではその例を（すべて過去の実例）。

- 願書を作成し、大学からの要項に入っていた書留の封筒に入れ、家族で確認し、ポストに投函した。（家族全員が「書留郵便」を出した経験がなかった）
→郵便局がその旨を知らせてくださったので、出願し直すことができた。
- 国立大の後期試験の合格通知がきて家族全員で大喜び。数日して入学金を振り込もうとしたら手続きの締め切りを過ぎていた。
→すぐ大学の入試課に連絡したが、文科省への報告のあとでどうにもならなかった（そもそも無理）。もともとどちらに行こうか迷っていた私立大に進学した。
- 大学入試センター試験（当時）の会場を間違えた。
→担任の先生の指示ですぐタクシーを呼び、駆けつけたところ間に合った。兄が受験したときの会場だったことと、他校の高校生につられたことが原因だった。
- センター試験会場に着いてから、写真票に写真が貼ってないことに気がついた。
→担任の先生がクルマで「3分間写真」に連れて行き、間に合わせた。
- 前期試験前日に飛行機で行く予定だったが、大雪でその日の全便が欠航になった。
→その地区（北海道）のすべての国公立大で試験が延期になった。
- 弁当の箸を忘れて、鉛筆で食べた。
- 学食が開いてなくて、ひもじいまま受験を続けた。（合格した）
- 試験が終わったときには交通手段がなくなっていたので、駅で寝た。（私の同級生の実例）
- 路線バスに受験生らしいのがたくさん乗っていたので油断していたら、最寄りのバス停をスルーされてしまい、他の受験生とともに慌てて次のバス停で降りて会場まで歩いた。（私の実体験）

番外編

- 後期試験を受けて不合格だった国公立大の入試課から3月25日過ぎに電話があり、繰り上げ合格を知らされた。（私が勤務していた高校での実体験で4例あり。すべてそこに進学。）

「『人々の人権を守るために』と空爆で人々を殺す。果ては、『世界平和』のために戦争をするという。いったい何を、何から守るのか。彼らは殺すために空を飛び、我々は生きるために地面を掘る。彼らはいかめしい重装備、我々は埃だらけのシャツ一枚だ。彼らは死を恐れ、我々は与えられた生に感謝する。同じヒトでありながら、この断絶は何であろう。彼らに分からぬ幸せと喜びが、地上にはある。乾いた大地で水を得て、狂喜する者の気持ちを我々は知っている。水辺で遊ぶ子供たちの笑顔に、はちきれりような生命の躍動を読み取れるのは、我々の特権だ。そして、これらが平和の基礎である」

中村哲 医師 2005年の手記より

2019年12月4日、アフガニスタン ジャラーラーバードで銃殺される